

1. 略歴

1998 年 3 月	東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
1998 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
2000 年 3 月	同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
2000 年 4 月	同 博士課程進学
2003 年 3 月	同 博士課程単位取得退学
2003 年 4 月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2006 年 3 月	博士 (社会学) 学位取得
2006 年 4 月	お茶の水女子大学文教育学部 講師
2007 年 4 月	信州大学医学部保健学科 講師
2011 年 5 月	奈良女子大学生活環境学部生活文化学科 准教授 (～2012 年 3 月)
2012 年 4 月	奈良女子大学研究院生活環境科学系生活文化学領域 准教授
2018 年 10 月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

医療社会学 ケアの社会学 認知症研究

b 研究課題

- (1) 認知症をめぐるケア・支援・運動の展開に関する経験的研究
- (2) 障害学・医療社会学と批判的老年学の接点に関する理論的研究
- (3) 遺伝性疾患保因者の経験・アイデンティティ・社会関係に関する経験的研究

c 概要と自己評価

(1) に関しては、日本における認知症ケア実践や当事者を中心とした活動に関するデータを医療社会学や障害学の概念を援用しながら分析して、2020 年度に単著の形で出版し、ここ 10 年にわたる研究成果をいったん総括することができた。(2) に関しては、(1) で援用した障害学や医療社会学における障害の社会モデルや医療化などの枠組みの理論的再検討や、国際的な認知症研究の動向把握を行いながら、日本における現象の国際的な批判的認知症研究・老年学研究の問題設定の中への位置付けを試み始めており、今後の国際発信の一歩を踏み出した。(3) に関しては、以前の患者調査を踏まえ、血友病患者の家族・親族における推定保因者に対するインタビュー調査を患者団体・関連研究者と 2019 年度から継続しており、2020 年度と 21 年度は最終成果報告に向けて研究グループ内での研究会を行ってきた。2022 年度以降により詳細な分析と成果報告を行なっていく予定である。

d 主要業績

(1) 著書

単著、井口高志、『認知症社会の希望はいかにひらかれるのか：ケア実践と本人の声をめぐる社会学的探求』、晃洋書房、284 頁、2020.8

共編著、武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明、『よくわかる福祉社会学』、218 頁、ミネルヴァ書房、2020.10 (執筆担当箇所：井口高志「ケアとはなにか」「親密圏とケアラー支援」「社会運動と福祉」「当事者参加」「セルフヘルプグループとピアサポート」「質的研究」「当事者研究とアクションリサーチ」「研究倫理」)

(2) 論文

井口高志、「ケアできない『原罪』：家事・育児をめぐる煩悶とこの 10 年」、『支援』編集委員会、『支援 vol.10』、生活書院、4-22 頁、2020.5

井口高志、「認知症との共生の社会学：予防と備えの対比から考える」、『老年精神医学雑誌』、32(2)、200-6、2021.3

井口高志、「認知症の人による〈当事者宣言〉は何に對抗し誰を包摂するのか？：分断に抗することと認知症カテゴリーの行方」、檜田美雄・小川伸彦編、『〈当事者宣言〉の社会学：言葉とカテゴリー』、東信堂、202-26 頁、2021.4

井口高志、「認知症新時代の福祉社会学的課題：ケアと承認をめぐる」、上村泰裕・金成垣・米澤旦編、『福祉社会学のフロンティア：福祉国家・社会政策・ケアをめぐる想像力』、ミネルヴァ書房、175-90 頁、2021.11

井口高志、「認知症ケアにおける「地域社会」：介護・介助の範囲をいかに見るべきか？」、『都市問題』、112(12)、50-8 頁、2021.12

(3) 書評

猪瀬浩平、『分解者たち：見沼たんぼのほとりを生きる』（書評タイトル：『声を聴く』のではなく：遍在する分解を呼び起こすために）、『支援』編集委員会、『支援 vol.10』、生活書院、240-7 頁、2020.5

木下衆、『家族はなぜ介護してしまうのか：認知症の社会学』、『ソシオロジ』、126-134、2020.10

海老田大五朗、『デザインから考える障害者福祉：ミシンと砂時計』（書評タイトル：「ブックガイド：デザインの門を恐る恐るくぐってみると」）、『支援』編集委員会、『支援 vol.11』、生活書院、226-8 頁、2021.5

(4) その他

井口高志、『よくわかる福祉社会学』／”An introduction to Welfare Sociology”、UTokyo BiblioPlaza (https://www.utokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/G_00071.html)

井口高志、「血友病患者を家族にもつ女性のケア経験の諸相」、患者・家族調査研究委員会編著、『血友病と周辺女性の経験に関する研究：中間報告書』、特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権〈MERS〉、16-18 頁、2021.4

井口高志、「新幹線はいちばんはやい?」、『支援』編集委員会、『支援 vol.11』、生活書院、226-28 頁、2021.5

鈴木雄、井口高志、岩永理恵、土屋葉、「移動という自由を得る難しさ」（鈴木雄へのインタビュー）、『支援』編集委員会、『支援 vol.11』、生活書院、155-61 頁、2021.5

(5) 学会発表

国際、Iguchi Takashi, Rethinking the Conflict between Prevention and Preparedness: Toward a Sociology of Living with Dementia, UT-NTU Sociology Forum 2021, 2021.11.6

国内、井口高志、「認知症社会の希望はいかにひらかれるのか：認知症の予防・備え・共生をめぐる議論から考える」、日本認知症ケア学会 2021 年度東北ブロック大会、2021.11.19

(6) 会議主催（チェア他）

国内、「福祉社会学学会第 19 回大会」、チェア、支援と支援者、2021.6.19～2021.6.20

国内、認知症政策プロジェクト 専門家会合、「介護保険制度創設から 20 年を経て考える「健康長寿社会に求められる介護システム」の在り方」、2021.12.20

(7) マスコミ

町永俊雄、『認知症社会』を読み解く人たち ふたりの研究者がすごい、『認知症 EYES 第 153 回, 認知症フォーラム.com』、2020.9.25

「東京大学人文社会系研究科社会学研究室准教授の井口高志先生にインタビューしました!」、『きらケア きらっこノート』、2020.10.1

大治朋子、「火論 『する』から『ある』へ」、『毎日新聞 東京朝刊』、2021.3.16

(8) 受賞

国内、第 6 回福祉社会学学会賞・学術賞、福祉社会学会、2021.8

(9) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、研究代表者、「地域共生社会における『意思』と『主張』をめぐる人びとの『支援実践』の領域横断研究」、2020～

文部科学省科学研究費補助金、研究分担者、「100 年人生対応の包摂型地域創出のための統合型地域診断に基づく地域再生手法の研究」、2021～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、信州大学医学部保健学科、「ヒューマンセクシュアリティ」、2020.11.19

セミナー、塩飽海賊団、「認知症社会の希望はいかにひらかれるか?（書評セッション）」、2021.1.25

セミナー、塩飽海賊団、「認知症の予防・備え・共生について、社会学の視点から考える」、2021.3.12

セミナー、塩飽海賊団、「ケアと家事を考える：感覚的活動 (Sentient Activity)、認知的労働 (Cognitive Labor) という概念から」、2021.4.26

国内、認知症政策プロジェクト 専門家会合、「介護保険制度創設から 20 年を経て考える『健康長寿社会に求められる介護システム』の在り方」、シンポジスト、2021.12.20

国内、コロナ ELSI ナイト：みんなで倫理的・法社会的課題を考える、地域包括ケア班スピーカー、2021.3.25

(2) 学会

国内、関西社会学会、機関誌『フォーラム現代社会学』専門委員（査読委員）、2020.4～

国内、日本保健医療社会学会、学術雑誌専門委員（査読委員）、2020.9～2021.3、『保健医療社会学論集』編集委員・理事、2021.5～

国内、福祉社会学会、副事務局長・理事、2021.6～

国内、日本社会学会、社会学評論編集委員会専門委員、2022.3～

(3) 行政

省庁、日本学術会議、科学技術政策、第24期外部評価有識者、2020.4～2022.3

省庁、日本学術会議、科学技術政策、国際委員会国際対応戦略立案分科会外部有識者、2022.3～

(4) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

日本総合研究所、経済産業省サービス強化事業費補助金（認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業）における審査委員会および評価委員会委員、2020.6～2022.3

日本医療政策機構、認知症政策プロジェクト「健康長寿時代の介護システムの構築に向けた『介護』の再定義」2021年度タスクフォースメンバー、2021.8～2022.3